

## 2003/2004ワールドカップシリーズ ファイナル

2004.12.02 アルジェリア

川西隆由樹・中田大輔ペアが見事優勝いたしました。

順	選手名	国名	Exec.				Sync.			得点
			J1	J2	J3	J4	J7	J8	J9	
1	川西隆由樹 中田大輔	日本	7.7	8.3	7.9	8.4	9.3	9.4	9.3	49.9(15.1)
2	SERTH Michael STEHLIK Henrik	ドイツ	8.3	7.8	8.1	8.3	9.0	9.7	9.1	49.8(15.2)
3	CHERNONOS O. NIKIN Yuri	ウクライナ	7.7	8.3	8.0	8.2	9.2	9.0	8.8	49.8(15.6)
4	KAZAK Nikolai POLYAROUSH Dimitri	ベラルーシ	7.4	8.4	7.5	8.5	9.3	9.4	9.3	49.3(14.8)
5	ALEXANDER Mark MILNES Simon	イギリス	7.8	7.8	8.0	7.1	8.7	9.4	9.1	49.1(15.3)
6	MOOIJ Sven VILLAFUERTE Alan	ニュージーランド	8.1	7.7	7.9	8.0	8.6	8.8	8.1	47.5(14.4)
7	BOILLET Michel MARTIN Ludovic	スイス	3.9	4.3	4.2	3.9	5.6	4.2	4.4	24.8(7.9)
8	LEVEN Alexander RUSAKOV Alexander	ロシア	1.6	2.5	1.5	2.6	2.7	2.6	2.5	14.4(5.1)

アルジェリアという未知な国で行われる大会ということではかなりの不安を抱えての出発であった。事前の調査では外務省のH.Pではテロの危険性を伺わせるような注意に、出場を予定していた廣田遥、西岡尚美の女子組は土壇場でキャンセルした。男子組は、FIG並びに現地関係者からの会場および都市部については全く危険性はないとの言葉を信じての出発となった。

途中経由地で1泊し、時差の調整を行い翌日の午前中にアルジェに到着した。空港では毎回のワールドカップ大会同様現地スタッフが笑顔で迎えてくれほっと一息であった。受付を終え早速午後から会場練習に入った。会場は綺麗で、試合に使用する台も新品であった。しかし、通常使用しているユーロ・トランポリンではなく、フランス製のトランプエアという台で、各国選手達もいささか戸惑いを隠せないという感じであった。

2日目の練習に入るとさすがにファイナルの残る各国代表選手達だけあり、不慣れな台にもうまく合わせ高度な技を連発し、お互いを威嚇するまでになった。大会当日はたくさんの観客が押し寄せてくれたのは良かったが、マナーの悪さにはかなり閉口した。まるでアウェーのサッカー場で試合を行っている様で、普段シーンとした会場できちんと精神統一をしてから演技をする選手達であるが、演技が始まって騒ぎが収まらず、ジャンプをやりなおす選手も出たりしてFIG関係者も怒りの表情をあらわにする場面までであった。

結果は3位スタートの中田大輔、川西隆由樹組が、僅差で世界チャンピオン組(ドイツ)とオリンピックチャンピオン組(ウクライナ)を抑え、見事優勝した。日本のトランポリン選手が世界一になったのは今回初めてのことでFIG関係者、各国選手達から惜しめない拍手とお祝いの言葉をかけられ素晴らしい大会となった。

2005年から始まる新しいシリーズでもまたこの感動を味わいたいものである。

レポート 森田弘文(団長・コーチ)

スナップ写真については「写真コレクション」コーナーで閲覧できます。